

4 食品検査

食品検査においては、市民の食生活の安全性を確保するため、市民及び行政の依頼をうけ、市民の食に関連する理化学検査を行っている。

食品衛生法に基づいて、乳、乳製品、一般食品及び容器包装、洗浄剤等の規格検査を行うほか、食品中の添加物、重金属、残留農薬及び抗菌剤等の試験検査、さらに化学的食中毒の原因物質検査や栄養成分分析も実施している。また、これらに関する調査研究も行っており、昭和62年度は厚生科学研究や全国衛生化学技術協議会による精度管理及び地方衛生研究所全国協議会による食物繊維の分析に参加したほか、国立衛生試験所に食品汚染物のモニタリングのデータを提供した。

〔業務報告〕

昭和62年度中の総検体数は836件、総検査項目数は2,613件であり（表1、2）、そのうち衛生管理部、保健所からの取去検査は640検体（76.5%）、項目数1,876件（71.8%）であった。

(1) 乳及び乳製品規格検査

取去検査54検体137項目、その他の行政依頼検査6検体24項目及び一般依頼検査7検体10項目について検査を行いすべて規格に適であった。

(2) 一般食品の規格検査

生あん規格検査13検体28項目、清涼飲料水規格検査32検体253項目について検査を行いそれぞれ1件ずつに規格不適があった。

また、油菓子17検体85項目について検査を行い基準違反はみられなかった。

(3) 食品添加物検査（表3）

ソルビン酸270件、亜硫酸96件、サッカリンナトリウム121件等、1,071件の検査を行い違反検体はソルビン酸に1件、サッカリンナトリウムに2件、亜硫酸に1件、プロピレングリコールに2件、タール色素に3件の使用基準違反があった。

(4) 残留農薬及びPCB検査

残留農薬検査は野菜、果物等、取去検査58検体283項目、一般依頼検査19検体73項目について検査を行い（表4）一部の検体に残留農薬が検出されたが（表5）、基準違反はみられなかった。PCBについては依頼検査の砂糖8検体ですべて不検出であった。

(5) 器具、容器包装検査

合成樹脂その他の規格検査28検体131項目について行いすべて規格に適であった。

(6) その他の検査

健康食品の重金属、異物検査22検体105項目、ベビーフードの重金属検査5検体16項目等の検査を行った。

(7) 厚生科学研究「食品添加物1日総摂取量調査に関する研究」

昭和62年度厚生科学研究は、指定された加工食品の1日喫食量に従って食品を購入し、8群に分類後秤取、摩砕して試料とし、全国12地区分担機関で送付し合い、当所はプロピレングリコールについて担当し、分析を行った。

表1 食品化学検査実施状況

昭和62年度

種 類	依 頼 別		衛 生 管 理 部 保 健 所		そ の 他 行 政 機 関		一 般	
	検 体 数	項 目 数	検 体 数	項 目 数	検 体 数	項 目 数	検 体 数	項 目 数
牛 乳	27	100	19	68	6	24	2	8
加 工 乳	1	2	1	2	—	—	—	—
魚 介 類	—	—	—	—	—	—	—	—
魚 介 類 加 工 品	137	328	114	253	5	45	18	30
肉・卵類及びその加工品	136	341	117	236	6	66	13	39
乳 製 品	37	77	34	67	—	—	3	10
乳 類 加 工 品	2	8	—	—	—	—	2	8
アイスクリーム類・氷菓	—	—	—	—	—	—	—	—
穀類及びその加工品	158	449	83	164	25	128	50	157
野菜・果実及びその加工品	103	458	92	386	—	—	11	72
菓 子 類	87	165	69	144	—	—	18	21
清 涼 飲 料 水	53	295	32	253	—	—	21	42
氷 雪	—	—	—	—	—	—	—	—
か ん 詰 ・ び ん 詰	5	43	1	4	—	—	4	39
そ の 他 の 食 品	61	215	58	202	—	—	3	13
添 加 物	1	1	—	—	—	—	1	1
器 具 及 び 容 器 包 装	28	131	20	97	—	—	8	34
総 数	836	2,613	640	1,876	42	263	154	474

表2 食品化学項目別検査件数

昭和62年度

種 別	検査項目	依 頼 別	総 数	衛生管理部 保 健 所	そ の 他 行 政 機 関	一 般
乳及び乳製品 (規格)	比	重	23	15	6	2
	酸	度	32	24	6	2
	乳	分	27	18	6	3
	乳	分	7	6	—	1
	無	分	43	35	6	2
	ア	ル	3	3	—	—
	水	素	1	1	—	—
	計		136	102	24	10
清涼飲料水 (規格)	鉛, ヒ素, カドミウム, スズの限度試験		174	164	—	10
食物添加物	ソ	酸	270	257	—	13
	安	酸	33	28	—	5
	バ	酸	33	28	—	5
	ラ	酸	10	10	—	—
	デ	酸	51	47	—	4
	合	料	2	—	—	2
	天	料	2	—	—	2
	残	素	2	—	—	2
	亜	根	90	85	—	5
	亜	酸	96	84	—	12
	ブ	酸	41	41	—	—
	ニ	酸	22	22	—	—
	ニ	酸	22	22	—	—
	サ	酸	121	109	—	12
	ア	ム	1	1	—	—
	プ	ム	50	42	—	8
	チ	ム	50	42	—	8
	ジ	ム	13	13	—	—
	縮	酸	88	83	—	5
	プ	分	66	61	—	5
水	分	2	1	—	1	
グ	ム	3	3	—	—	
ア	ム	5	—	—	5	
5	ム					
	計		1,071	979	—	92
栄養分析	粗	蛋	63	—	35	28
	粗	脂	64	—	35	29
	粗	繊	3	—	—	3
	灰		57	—	35	22
	水		59	3	35	21
	ビ		96	—	56	40
	乳		1	—	—	1
	C		84	—	43	41
a,		2	—	—	2	
粉						
	計		429	3	239	187
金 属	ヒ素, 鉛, スズ, 銅, カドミウム, その他		120	86	—	34

種 別	依 頼 別		総 数	衛生管理部 保 健 所	そ の 他 行 政 機 関	一 般		
	検 査 項 目							
器具・容器 包 装	材質 試験	Cd, Pb, Ba 揮 発 性 物 質	29 7	18 7	— —	11 —		
	溶出 試験	フ エ ン ー ル ホ ル ム ア ル デ ヒ ド エ ピ ク ロ ル ヒ ド リ ン 塩 化 ビ ニ ル 属 重 金 属 鉛, ヒ素, カドミウム, 水銀 ア ン チ モ ゲ ル マ ニ ウ ム ブチルヒドロキシアノール(B.H.A) ジブチルヒドロキシトルエン(B.H.T) 蒸 発 残 留 物 KMnO ₄ 消 費 量	4 4 3 3 16 19 3 3 2 2 19 16	4 4 3 3 11 15 3 3 — — 14 11	— — — — — — — — — — — —	— — — — 5 4 — — 2 2 5 5		
		ピ ン ホ ー ル 試 験		1	1	—	—	
		計		131	97	—	34	
		残留農薬・ PCB	塩 素 系 リ カ バ リ 系 パ コ リ ル ト ラ 属 (As・Pb・Cd) 金 属 C B P	92 221 10 9 12 8	77 177 8 9 8 —	— — — — — —	15 44 2 — 4 8	
			合 成 抗 菌 剤		4	4	—	—
			計		356	283	—	73
			異 物	ダ ニ, そ の 他	39	23	—	16
			そ の 他	油 脂 分 性 活 性 分 性 水 揮 発 性 塩 基 窒 素 揮 発 性 塩 基 窒 素 酸 過 酸 化 物 価 価 メ ヒ タ ノ ミ ル 蚩 ス タ タ ミ シ 光 染 料 水 素 イ オ ン 濃 度 添 加 ラ 物 規 格 ソ	17 39 2 23 23 16 8 2 16 9 1 1	17 35 2 20 20 16 8 — 15 5 — 1	— — — — — — — — — — — —	— 4 — 3 3 — — 2 1 4 1 —
		計		157	139	—	18	
総 数		2,613		1,876	263	474		

表3 主な食品添加物の検査状況(収去検査)

昭和62年度

名称	食品名	件数 (違反)	検出数 (検出率)	検出量	(平均)	使用基準
ソ ル ビ ン 酸	魚肉ねり製品	58	34	0.07~1.9	(1.08)	2 g/kg 以下
	魚肉ハム・ソーセージ	8	7	0.64~1.6	(0.89)	2 g/kg 以下
	チーズ	6	0			プロピオン酸と 合量3g/kg以下
	食肉製品	77	32	0.03~1.6	(1.10)	2 g/kg 以下
	漬物	24 (1)	5	0.04~1.2	(0.49)	1 g/kg 以下
	その他の漬物	1	1	0.22		0.5 g/kg 以下
	魚介乾製品	25	8	0.1~1.0	(0.58)	10 g/kg 以下
	イカクン・タコクン	15	14	0.74~1.3	(0.96)	15 g/kg 以下
	煮豆・佃煮	16	7	0.24~0.7	(0.51)	10 g/kg 以下
	みそ	7	0			10 g/kg 以下
その他	20	14	0.08~1.2	(0.23)		
	総数	257	122			
サ ッ カ リ ン ・ ナ ト リ ウ ム	魚肉ねり製品	58 (1)	2	0.27~0.37	(0.32)	0.3 g/kg 未満
	魚肉ハム・ソーセージ	8	0			0.3 g/kg 未満
	コウジ・酢・たくあん漬	4	4	0.23~1.2	(0.85)	2.0 g/kg 未満
	カス・みそ・正油漬	3	0			1.2 g/kg 未満
	その他の漬物	18	1	0.05		0.2 g/kg 未満
	煮豆・佃煮	16	0			0.5 g/kg 未満
	その他	2 (1)	1	0.54		
	総数	109	8			
プ ロ ピ ン グ リ コ ール	生めん	61 (2)	41	0.7~4.6		2% 以下
	魚介乾製品	14	0			0.6% 以下
	イカクン	8	0			2% 以下
	総数	83	41			

名称	食品名	件数 (違反)	検出数 (検出率)	検出量	(平均)	使用基準
亜硝酸	魚肉製品	8	5	0.004~0.018	(0.009)	0.05g/kg以下
	食肉製品	77	64	0.001~0.05	(0.015)	0.07g/kg以下
	総数	85	69			
亜硫酸	生あん	13	1	0.002		0.03g/kg未満
	野菜	9 (1)	1	0.001		使用しては ならない
	漬物	20	7	0.001~0.006	(0.003)	0.03g/kg未満
	煮豆	8	1	0.016		0.1g/kg未満
	佃煮	8	1	0.002		0.03g/kg未満
	その他	26	9	0.001~0.14	(0.115)	
	総数	84	20			

着色料 (合成・天然)	項目 種類	検 体 数	検 出 検 体 数	検 出 色 素 数	検出色素内訳												
					黄 色 4 号	黄 色 5 号	赤 色 102 号	赤 色 104 号	赤 色 106 号	青 色 1 号	青 色 2 号	ア ゾ ル ビ ン 色 素	コ チ ニ ール 色 素	ク チ ナ ン 黄 色 素	ラ ック 色 素	ニ ン ジ ン 色 素	ク ロ ロ フ ィ ル 色 素
	菓子	18	11	18	7	2	1	1	2	5							
	つけもの	10	5	11	5	2	2		2								
	その他	19	3	3								3					
	総数	47	19	32	12	4	3	1	4	5		3					

表4 残留農薬・PCBの検査状況

昭和62年度

品名	区分・判定	総 数		適		不 適		備 考
		検体数	項目数	検体数	項目数	検体数	項目数	
総 数	収去	58	283	58	283	—	—	
	依頼	19	73	19	73	—	—	
果 実	収去	18	95	18	95	—	—	
	依頼	—	—	—	—	—	—	
野 菜	収去	30	166	30	166	—	—	
	依頼	3	21	3	21	—	—	
そ の 他	収去	10	22	10	22	—	—	
	依頼	16	52	16	52	—	—	

表5 野菜・果実中の残留農薬および重金属

Sample	アス	カリ	か	か	か	キ	き	ご	さ	ゼ	だ	た	ト	な	に	ね	ほ	ば	ビ	ほう	い	レ	い	カ	す	な	な	バ	バ	ぶ	ミ	メ	リ					
残留農薬 重量比	1	1	1	2	1	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1					
検体数	1	1	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	1	1	2	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1					
総 B	nd			nd				nd																														
総 D	nd			nd																																		
エン	nd						nd																															
カ																																						
キ																																						
ジ																																						
デ																																						
T							nd																															
E							nd																															
クロ																																						
ジク							nd																															
ジメ																																						
ダイ																																						
バラ																																						
フェ																																						
フェ																																						
ホ																																						
マ																																						
エル																																						
カル																																						
パラ																																						
As ₂ O ₂																																						
pb																																						

(単位: ppm. nd: 不検出)

5 大気検査

大気検査係では、市民の健康と生活環境に影響を及ぼすおそれのある大気汚染物質等の検査を行っている。

また、社会問題化している酸性雨（雪）、アスベスト等の未規制物質についての調査研究を行っている。

行政依頼検査は、公害部からの依頼が多く全体の8割以上を占めている。

なお、スパイクタイヤによるアスファルト等の浮遊粉じんによる大気汚染の調査研究を昭和54年度から行っているが、更に59年度からは、公害部の依頼による検体の分析も実施している。

〔業務報告〕

昭和62年度の実施検体数は1,950件、延検査項目数は4,096件であり、内訳は表1及び表2のとおりである。

(1) 環境調査

公害部の定点観測として市内3カ所にデポジットゲージを設置し、降下ばいじん量の測定を毎月1回行い、成分分析（総量、不溶解性成分：タル分他2項目、溶解性成分：灼熱減量、灰分、pH他4項目）を実施している。

(2) 重油中のいおう分測定

大気汚染防止法及び札幌市公害防止条例に基づく燃料規制対象の燃焼施設における重油中のいおう含有量について、134検体を測定した。

(3) 酸性雨（雪）調査

定点観測として、市内1カ所に測定器を設置し、毎月1回、4月～11月迄は雨水を、12月～3月迄は雪の水素イオン濃度、導電率他7項目の分析を実施した。

なお、北海道・東北ブロック公害研連絡協議会で、共同で実施をしている酸性雨・酸性雪の合同調査にも積極的に参加している。

(4) 悪臭物質調査

印刷工場等の苦情による悪臭防止法に基づく悪臭物質のうち、アンモニア、メチルメルカプタン他4物質の分析を行った。

(5) 有害物場調査

生活環境をそこなうおそれのある有害物質のうち、自動車排ガスからの影響と見られる発がん性物質（ベンツピレン）、変異原性物質（ニトロピレン）の分析が若干あり、他に、最近、社会問題化しているアスベストの環境中への実態把握のための分析などの申込みが約200件程度増加した。

(6) スパイクタイヤによる粉じん調査

昭和59年度から札幌市5カ年計画事業の一環として、本格的な調査が開始され、公害部からの業務委託により、スパイクタイヤによる道路粉じんの大気環境中の浮遊粒子状物質等の

総量及び重金属成分としてカルシウム、アルミニウム、鉄他6項目の分析及びアスファルト成分の分析等を、引き続き実施している。

(7) 自動測定機吸収液の調整

一般環境局(9観測局)及び自動車排ガス局(3観測局)における窒素酸化物、いおう酸化物自動記録計の吸収液の調整を、971件行った。

(8) 環境庁委託業務

「アスベスト発生源精密調査」として、市内西区のA工場を中心として、アスベスト投入口等、敷地境界の7地点を、3日間、夏及び冬に行った。

表1 大気検査実施件数

区 分 業 務		検 体 数		延 検 査 項 目 数	
		昭和 62 年度	昭和 61 年度	昭和 62 年度	昭和 61 年度
環 境 調 査	降 下 ば い じ ん	69	87	549	517
	浮 遊 粉 じ ん	0	0	0	0
重 油 中 の い お う 分 測 定		134	327	134	327
煙 道 排 ガ ス 中 の ば い 塵 測 定		0	23	0	65
酸 性 雨 調 査 (雪)		77	98	721	852
悪 臭 調 査		22	12	96	43
有 害 物 質 調 査		432	472	464	472
ス パ イ ク タ イ ヤ に よ る 粉 じ ん 調 査		245	1,048	1,161	10,567
自 動 測 定 機 吸 収 液 調 製		971	700	971	1,261
総 数		1,950	2,767	4,096	14,104

表2 大気検査実施件数一覧表

昭和62年度

区分	検体数		検査項目	延検査項目数		区分	検体数		検査項目	延検査項目数				
	依頼検査	独自検査		依頼検査	独自検査		依頼検査	独自検査		依頼検査	独自検査			
降下ばいじん	定	26	12	総量	26	12	スパイクタイヤによる粉じん調査	192	53	クロム	0	53		
				不溶解性成分	72	36				水溶性イオン	0	230		
				溶解性成分	188	84				(硫酸イオン) (塩素イオン) (硝酸イオン) (水素イオン)				
				(小計)	286	132				セシウム	0	26		
	スパイク粉じん	31	[31]	総量	31	0		(小計)	380	781	アンモニア	8	0	
				不溶解性成分	0	30		硫化水素	8	0				
				溶解性成分	0	70		硫化メチル	8	0				
				(小計)	31	100		二硫化メチル	8	0				
								メチルメルカプタン	8	0				
								スチレン	14	0				
雨水成分調査	37	40	pH	37	40	悪臭調査	22	0	トルエン	14	0			
			導電率	37	40				キシレン	14	0			
			アンモニア	37	40				酢酸nブチル	14	0			
			硫酸イオン	37	40				(小計)	96	0			
			硝酸イオン	37	40				有害物質調査	385	47	水銀	75	18
			カルシウムイオン	38	40							アスベスト	177	29
			塩素イオン	37	40							ベンソピレン	16	0
			ナトリウムイオン	38	40							ニトロピレン	12	0
			マグネシウムイオン	6	27							ホルムアルデヒド	16	0
			カリウムイオン	6	27							塩化水素	3	0
			ホルムアルデヒド	12	0							一酸化窒素	59	0
			カルシウム分	8	0							二酸化窒素	59	0
			ナトリウム分	8	0							(小計)	417	47
			降下物量	9	0							いおう酸化物	241	0
(小計)	347	374	窒素酸化物	326	0									
いおう分測定	134	0	オキシダント	54	0									
(小計)	134	0	等価液	42	0									
			酸化剤	308	0									
			(小計)	971	0									
スパイクタイヤによる粉じん調査	134	0	浮遊粉じん量	192	27	自動記録計吸取液調整	971	0	総計	2,662	1,434			
			鉛	0	53				総数	1,798	[31] 152			
			鉄	26	27									
			亜鉛	6	53									
			アルミニウム	26	27									
			カルシウム	26	27									
			マンガン	26	27									
			チタン	26	27									
			バナジウム	26	27									
			ベンゾ(a)ピレン	26	18									
銅	0	53												
ニッケル	0	53												
コバルト	0	53												

6 水質検査

水質検査係では、行政依頼検査として、市内の河川水、工場排水、鉱山排水の定期監視と水辺環境河川水水質調査他6調査等公害部実施事業について密接に連絡をとり、水質検査を実施した。

また、事業所排水や河川改修工事に伴う地下水及び地下ケーブル埋設地の浸透水等多様の依頼があり検査を実施した。調査研究としては「市内排水路水等の環境調査」、環境庁委託業務としては「分析法開発調査」を実施し、相談業務についてもプール水等依頼があり検討、検査した。

昭和62年度中の検体数は、1,555件、延検査項目数は11,591件であった。

主な検査項目は、生活環境項目(6)、健康項目(9)の他窒素、リン、トリクロロエチレン、LAS、コプロスタノール、ベンゾaピレン等46種に及んでいる。

今後は、複雑多様化する環境保全問題に対応するため、環境浄化、特に河川水、湖沼、各種排水等の水質浄化法の検討及び検査体制の一層の充実、強化を図っていききたい。

〔業務報告〕

依頼先別の検査内容は次のとおりである。

(1) 行政依頼検査

行政依頼検査は主として公害部からのものであり、その検体数は1,304件で総検体数の84%に相当し、延検査項目数では9,244件で80%を占めている。

ア 河川水質検査

豊平川水域15地点、新川水域5地点及び茨戸川水域5地点、その他1地点の合計26地点の環境水質監視に伴う水質検査が主なもので、総検体数519件、延検査項目数4,783件であった。

イ 鉱山排水水質検査

豊羽鉱山排水5地点及び手稲鉱山排水3地点で、計66検体、544項目について実施した。

ウ 工場排水水質検査

水質汚濁防止法に基づく特定事業場の定期監視による水質検査で検体数464件、延検査項目数2,415件を実施した。

エ 地下水水質検査

井戸水その他湧点有機塩素化合物の検査で本年は調査地域を河大したので、検体数220件(昨年度比2.2倍)延検査項目数1,226件(昨年度比2.5倍)を実施した。

オ 水辺環境河川水質調査

市内水遊場6カ所について、5月、6月、8月の3回実施し、検体数18件、項目数は90件であった。

カ その他

湖沼水質検査(11検体、88項目)、アスファルト粉じん河川底質調査(6検体、114項目)、還元井水質調査(フロン等23検査項目について、7検体161項目)等実施した。

(2) 事業所依頼検査

下水道法に基づく各保健所等の排水検査及び工事に伴う水質検査を実施した。

検体数は129件、検査項目数は395件であった。

(3) 調査研究

市内排水路水等環境調査

市内の排水路及び河川の水環境下における水系病原菌等の汚染状況を把握する目的で、排水路12地点、河川9地点について年6回採水し、主に化学検査を実施した。

検体数は122件、項目数は1,952件である。

(4) 環境庁委託業務（分析法開発調査）

本年度は「ムスクキシレン」の分析法を検討し開発した。

第5回環境科学セミナーにて報告した。

(5) 相談業務

ア 市内の学校プールで、表面塗料がはく離して白濁した。

この原因と塗料片の安全性について依頼があった。

アミン、チタン等7項目について検査したが、何れも検水中不検出であった。

原因は、消毒用塩素水で塗料膜が劣化し、はく離したものと思われる。(62.6.23)

イ 医大前付近の下水から異臭がする旨の苦情があった。

有機溶媒と思われるが、物質を特定したい旨、依頼があった。

GC/MSで検査の結果、キシレン及びヘキサンが下水に流れていた事が判明した。(62.7.24)

ウ 脱水ケーキとコンポスト中のLASの分析について相談があった。

液クロによる分析法の検討を行った。更に脱水ケーキ、コンポストの検査データを得る事が出来、依頼に応えた。(62.12.14)

水質検査実施件数一覧表

昭和62年度

依頼先	行政機関				事業所・一般				衛生研究所			総計						
	環境水質監視 河川水	山監視 水	工場監視 水	苦情・その他 河川水	河川水	排水	地下水	その他	小計	河川水	排水		河川水	小計				
															河川水	排水	地下水	その他
検体数	397	66	464	377	122	1	220	34	1,304	1	112	11	5	129	54	68	122	1,555
項目数	4,292	544	2,415	1,993	491	3	1,226	273	9,244	6	318	66	5	395	864	1,088	1,952	11,591
pH	396	66	460	298	64	1	220	13	1,220		84	10		94	54	68	122	1,436
D O	396			53	42			11	449	1		1	5	7	54	68	122	578
B O D	397		407	133	121	1		11	937	1	2	1		4	54	68	122	1,063
C O D	396		2	77	59		7	11	475	1		1		2	54	68	122	599
浮遊物質	396		438	85	74			11	919						54	68	122	1,041
最確数	396			37	19		7	11	433						54	68	122	555
大腸菌群			386	1		1			387									387
MFC				18	18				18						54	68	122	140
ヘキサン抽出物	155		139	28	28				322		1			1				323
総窒素	156			18	7			11	174						54	68	122	296
総りん	156		3	14	3			11	173						54	68	122	295
カドミウム	156	66	59	13	2		7	4	294		24			24				318
シアン	156	35	52	2	2				245		24			24				269
有機りん	33			2	2				35									35
鉛	156	66	62	11	2		7	2	295		12			12				307
六価クロム	156		64	9	2		7		229									229
ひ素	156	66	56	6	2			4	284									284
総水銀	156		43	11	2		7	2	210		96			96				306
アルキル水銀	33			2	2				35									35

年間の動向

主な会議，研究会，学会等への出席

年月	会議等の名称	開催地	出席者
62. 4	第61回日本感染症学会	東京都	鈴木(欣)
62. 4	第90回日本小児科学会学術集会総会	東京都	福士
62. 5	昭和62年度全国公害研協議会北海道東北支部総会	福島市	高杉, 大内
62. 5	北海道小児保健研究会 昭和62年度総会 ※〔札幌市における神経芽細胞腫マス・スクリーニング〕 (花井) 〔札幌市が行っている神経芽細胞腫マス・スクリーニング〕 の6年間の成果と新生児期の尿中VMA, HVA値につ いて報告した。 ※〔札幌市における新生児および妊婦の甲状腺機能マス・ スクリーニングについて〕(福士) 〔札幌市における妊婦甲状腺機能スクリーニングの現状と〕 その意義について報告した。〕	札幌市	福士, 花井
62. 5	新生児スクリーニング精度管理に関する国際ワークショップ	日光市	福士
62. 5	第2回17 α -OHPの測定法に関する研究会	東京都	福士
62. 5	第4回国際先天性代謝異常学会	仙台市	水嶋, 山口
62. 5	昭和62年度化学物質環境汚染実態調査打合会議	東京都	西野
62. 6	第30回日本内分泌学会甲状腺分科会	東京都	福士
62. 6	昭和62年度全国地方衛生研究所長会議	東京都	富所, 高橋
62. 6	GC-MS分析講習会及びGC-MSメンテナンス講習会	調布市	西野
62. 6	衛生微生物研究協議会第8回研究会	東京都	吉田
62. 6	第60回日本内分泌学会学術総会 ※〔乾燥濾紙血液 Testosterone の酵素免疫測定法の開発〕 〔乾燥濾紙血液 Testosterone の酵素免疫測定法の開発と〕 〔その副腎皮質機能検査での有用性について報告した。〕	東京都	福士

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	出 席 者
62. 7	昭和62年度地方衛生研究所全国協議会北海道、東北、新潟支部総会	福島市	富所, 有原
62. 7	光学顕微鏡法によるアスベスト測定法講習会	川崎市	塩田
62. 7	環境庁委託業務(アスベスト発生源精密調査)打合せ	東京都	塩田
62. 7	新生児スクリーニング採血濾紙検討会	東京都	福士, 山口
62. 9	昭和62年度指定都市衛生研究所長会議	横浜市	富所
62. 9	第15回代謝異常スクリーニング研究会 ※〔先天性副腎皮質過形成の新生児マス・スクリーニングの指標について〕(福士) 〔先天性副腎皮質過形成のマス・スクリーニングにおける検査の指標として17 α -hydroxyprogesterone(17-OHP)の直接法及び抽出法, 17-OHP / cortisol 比の比較を, それぞれのカットオフ値を変化させて検討した。〕 ※〔血液濾紙による乳酸測定法の検討〕(水嶋) 〔新生児の高乳酸血症のマス・スクリーニングのための血液濾紙を用いた酵素法及びHPLC法による乳酸測定法について検討した。〕 ※〔新生児期の尿中VMA, HVA値について〕(花井) 〔新生児期の尿中VMA, HVA値を測定し, 生物学的特徴を調べ, この時期のスクリーニングの有用性について検討した。〕 ※〔マイクロプレートによるろ紙血Phe, HisおよびGal+Gal-1-Pの微量ケイ光定量〕(山口) 〔フェニルケトン尿症, ガラクトース血症の一次スクリーニング法として操作性, 信頼性に優れた微量ケイ光定量法を開発した。〕	大阪市	佐藤(泰), 福士, 水嶋, 花井, 山口
62. 9	HTLV-1母子感染予防研究会	札幌市	福士
62. 9	AIDS抗体検査技術研修	東京都	吉田
62. 9	昭和62年度化学物質環境汚染実態調査ブロック別打合会議	箱根町	山崎

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	出 席 者
62. 10	<p>第24回全国衛生化学技術協議会年会, 分科会</p> <p>※〔札幌市における浮遊粉じん中の水溶性成分の挙動について〕(鈴木(寿))</p> <p>〔市内3地点において, 浮遊粉じん中の8種類の水溶性成分濃度を測定した。各水溶性成分濃度は, 海塩粒子, 二次生成粒子及びスパイク粉じんの影響で季節変動が大きいことが認められた。〕</p>	東京都	富所, 鈴木(寿)
62. 10.	第54回日本食品衛生学会	神戸市	赤石(尚)
62. 10	地方公共団体公害試験研究機関等所長会議及び第16回全国公害研究協議会総会	東京都	前田
62. 10	<p>第39回北海道公衆衛生学会</p> <p>※〔札幌市内で分離されたヒト由来サルモネラの伝達性Rプラスミドについて〕(鈴木(欣))</p> <p>〔過去4年間に分離したヒト由来サルモネラ菌株について, 伝達性Rプラスミドの保有状況を調べ, 薬剤耐性株との関連を明らかにした。〕</p> <p>※〔神経芽細胞腫マス・スクリーニング ークレアチニン値と尿ろ紙の乾燥についてー〕(川合)</p> <p>〔尿ろ紙中のクレアチニンの分解, 低下によるVMA, HVA異常高値について, その原因とその防止対策について検討した。〕</p> <p>※〔微量定量法による先天性代謝異常マス・スクリーニング〕(山口)</p> <p>〔ガスリー法により, 新生児マススクリーニングの対象になっている先天性代謝異常症5疾患について, 新たに開発した微量ケイ光定量法の有用性を検討した。〕</p>	旭川市	鈴木(欣), 川合, 花井, 山口, 小塚, 山本, 早川, 伊藤(正)

年月	会議等の名称	開催地	出席者
	<p>※〔一般住居における室内塵中ダニ類の季節変動〕（小塚）</p> <p>〔昭和61年2月から12月まで2ヶ月間隔で調査した本市の一般住宅2軒の室内塵中ダニ類の季節変動について報告した。〕</p> <p>※〔GC/MS-SIM法による酒清飲料中カルバミン酸エチルの微量分析法について〕（山本）</p> <p>〔カルバミン酸エチル（EC）をメチル誘導体化した後ガスクロマトグラフ・マススペクトロメトリー（GC/MS）を用いてSelected Ion Monitoring（SIM）法による定量について報告した。〕</p> <p>※〔イオンクロマトグラフによる食品中の硝酸塩の迅速定量について〕（早川）</p> <p>〔食品中の硝酸塩をイオンクロマトグラフを用いて、簡便かつ迅速に定量する方法について検討し報告した。〕</p> <p>※〔札幌市における地域別酸性雨及び酸性雪の調査結果について〕（伊藤（正））</p> <p>〔市内の局地的、地域的観点から実態を把握するため、11地点を対象に酸性雨、酸性雪の調査を実施した結果主な地域的特徴及びその分布範囲は、時期によりその様相を変化させることが判った。〕</p>		
62. 10	<p>第13回北海道・東北ブロック公害研研究連絡会議</p> <p>※〔札幌市における地域別酸性雨及び酸性雪の調査結果について〕（伊藤（正））</p> <p>〔市内の酸性雨、酸性雪の実態を局地的、地域的観点から把握するため、11地点を対象に調査を実施した。その結果として、pH及び成分は、地域によるばらつきが認められ、さらに時季によってもその様相は変化することがわかった。〕</p>	盛岡市	東海林， 伊藤（正）

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	出 席 者
62. 10	食品衛生微生物研究会 第8回学術講演会	大 阪 市	師尾
62. 11	第38回地研全国協議会総会及び次長、庶務課長会議	長 崎 市	富所, 清水
62. 11	第46回日本公衆衛生学会総会 ※〔ヘキサン共蒸留による食品中の塩素系有機溶剤の迅速 定量〕(立野) 〔トリクロロエチレン・テトラクロロエチレン等の有機 溶剤による飲料水の汚染が社会問題化していることか ら、飲料水を主な原料とする食品について、分析方法 の検討と市販食品の実態調査を行い報告した。〕 ※〔一般家屋における室内塵中ダニ類の季節的消長〕(小塚) 〔昭和61年2月から12月まで2ヶ月間隔で調査した本市 の一般住宅2軒の室内塵中ダニ類の季節変動について 報告した。〕	長 崎 市	立野, 小塚
62. 11	第15回建築物環境衛生管理全国大会及び建築物環境衛生管 理技術研究集会	名 古 屋 市	赤石(準)
62. 12	昭和62年度食品化学講習会	東 京 都	大内
62. 12	第1回日本ビオチン研究会学術集会 ※〔ビオチンデース欠損症のパイロットスクリーニング結 果について〕(山口) 〔新しいスクリーニング対象疾患の一つとして注目されて いるビオチンデース欠損症について、国内7機関で行っ た、パイロットスタディの結果を報告した。〕	東 京 都	山口
63. 1	第14回環境保全、公害防止研究発表会 ※〔札幌市における初春期の浮遊粉じん中の水溶性成分の 変動について〕(鈴木(寿))	東 京 都	山崎, 鈴木(寿)

年 月	会 議 等 の 名 称	開 催 地	出 席 者
	〔大気浮遊粉じんの水溶性成分の挙動を調査し、発生源及び気象要因の影響の初春期について検討した結果、主成分分析による解析では、第1主成分（総合的汚染量）、第2主成分（海塩の影響）、第3主成分（土壌由来と人為的発生源由来）を示す因子と考えられた。〕		
63. 1	昭和62年度環境庁委託業務（アスベスト発生源精密調査） 結果報告打合せ	東 京 都	塩田
63. 2	第5回環境科学セミナー 〔ムスクキシレンの分析法について報告した〕	所 沢 市 東 京 都	西野，川村
63. 2	厚生省心身障害研究－昭和62年度－ 「マスキングに関する研究班」班会議	名古屋市	高杉，佐藤(泰)， 福士
63. 2	昭和62年度地研北海道・東北・新潟支部衛生化学研究部会 総会	仙 台 市	赤石(尚)
63. 2	全国衛生化学技術協議会理事会及び常任幹事会	東 京 都	
63. 2	酵素免疫測定法による神経芽細胞腫マス・スクリーニング	東 京 都	
63. 2	北海道・東北・新潟支部微生物研究部会総会	札 幌 市	清水，大森， 吉田，師尾， 小林
63. 3	第22回水質汚濁学会	東 京 都	浦嶋
63. 3	神経芽腫 マスキングにHPLC使用に関する会議	京 都 市	佐藤(泰)
63. 3	先天性副腎過形成症検査技術者研修会	東 京 都	福士
63. 3	昭和62年度食品添加物摂取量調査研究報告会 ※〔加工食品に由来するプロピレングリコールの1日摂取量について〕（大内） 〔厚生省の「食品添加物1日摂取量調査方式」に従い、全国12機関で集めた加工食品8群のプロピレングリコールを分析し、1日摂取量について報告した。〕	仙 台 市	大内，立野

年月	会議等の名称	開催地	出席者
63. 3	<p>第6回アジア小児科学会</p> <p>※〔 MASS SCREENING OF NEUROBLASTOMA IN INFANTS USING HIGH-PERFORMANCE LIQUID CHROMATOGRAPHY IN SAPPORO CITY, JAPAN 〕(花井)</p> <p>〔 HPLC を用いた神経芽細胞腫マス・スクリーニングについて、その方法及び結果を報告した。 〕</p> <p>※〔 PILOT SCREENING FOR LACTIC ACIDEMIA FROM NEONATAL BLOOD SPOT SAMPLE 〕(水嶋)</p> <p>〔 先天性高乳酸血症のマス・スクリーニング法の検討と、患児の測定結果により、スルリーニングの可能性について検討した。 〕</p> <p>※〔 A MICROASSAY FOR NEWBORN METABOLIC SCREENING 〕(山口)</p> <p>〔 微量ケイ光定量法による代謝異常症5疾患および微量比色定量法によるピオチニデース欠損症、高乳酸血症のパイロットスクリーニング結果を報告した。 〕</p>	東京都	水嶋, 花井, 山口
63. 3	全国家庭用品安全対策担当係長会議	東京都	佐藤(稔)